

2026年3月4日
アエラホーム株式会社

【開催レポート】アエラホーム、第30回「震災対策技術展」へ出展 東京理科大学 高橋治教授との産学連携「擁壁調査プロジェクト」に反響 ～セミナー「擁壁倒壊はなぜ起きたのか？」では、都市部に潜む擁壁の寿命に警鐘～



東京理科大学 高橋治教授

「世代を超えて愛される暮らしを創る」を企業理念に掲げて、新築の注文住宅・規格住宅の販売やリフォーム事業、フランチャイズチェーン事業、不動産事業等を展開するアエラホーム株式会社（以下：アエラホーム 東京都千代田区／代表取締役社長：中島秀行）は、2026年2月5日（木）・6日（金）にパシフィコ横浜で開催された、国内最大級の防災技術展示会「第30回 震災対策技術展」において、東京理科大学工学部 高橋治教授の研究室を中心に、複数の企業と共同出展いたしました。

会期中は多くの方にご来場いただき、特に「擁壁調査プロジェクト」の展示や高橋教授による特別セミナーでは、住宅の安全を足元から支える最新技術と課題解決へのアプローチに対し、高い関心が寄せられました。

■ セミナーレポート：「擁壁倒壊はなぜ起きたのか？ 命の守り方」

2月6日（金）には、免震・制震構造設計の第一人者である高橋治教授がセミナーに登壇いたしました。高橋教授は、能登半島地震等の震災事例を分析し、住宅そのものの耐震性だけでなく、住宅を支える「擁壁」の老朽化が甚大な被害をもたらす要因であることを解説しました。

セミナーでは、一般的にコンクリートの寿命は約50年と言われており、昭和40年代から50年代（1965-1984）にかけて宅地造成された都市部の擁壁が、現在一斉に寿命を迎えつつある現状に警鐘を鳴らしました。また、富士山噴火時の火山灰が建築物に与える重量リスクを含む、多角的な視点から防災の重要性を説きました。

■ 展示ブース：産学連携による「擁壁調査プロジェクト」の始動

アエラホームが共同出展したブースでは、2025年に始動した「擁壁調査プロジェクト」の体制をご紹介しました。本プロジェクトは、専門性が高く相談窓口が限定的であった個人宅地の擁壁診断に対し、アエラホームが初回調査の総合窓口となり、産学の連携によって「リスク評価」から「補強計画の立案」までを一貫して行うものです。

また、最新の補強技術として以下のソリューション等を展示いたしました。

- ・ポリウレア・アラミド繊維補強：原子力発電所や防衛施設の爆風対策にも使われる強靱な素材を用いた補強工法
- ・オイルダンパー：地震の揺れを効果的に吸収する制震装置



アエラホームは、今後も高橋治教授との強固な連携のもと、住宅とその地盤の安全を守る活動を通じて、世代を超えて愛される安心な住環境の提供に努めてまいります。

■ アエラホームについて



アエラホームは、「新しい暮らしの価値を創造することで、環境と人にやさしい未来を目指す」というパーパスのもと、外張 W 断熱工法を採用した高気密・高断熱・高遮熱住宅「クラージュ」「プレスト」等、省エネ性能が高く、住む人にも、地球環境にも優しい高性能住宅を提供しております。

2025年6月に創業62周年を迎え、地域に密着した住宅メーカーとしてこれからも事業展開を進めてまいります。

【会社概要】

■ アエラホーム株式会社 (<https://www.aerahome.com>)

所在地：東京都千代田区九段南 2-3-1 青葉第一ビル 2 階（本社）

代表者：代表取締役社長 中島 秀行

事業内容：注文住宅・規格住宅の販売、リフォーム事業、フランチャイズチェーン事業、不動産事業など

【本件に関するお問い合わせ先】

担当者：アエラホーム株式会社 企画開発部 後藤、大森

T E L : 03-3512-2311 / E-mail : info@aerahome.com

以上